資料

横浜市ＥＳＤ推進コンソーシアム交流報告会（児童生徒の部）

１　目的

・今年度の学習活動のまとめとして発表を行って自分たちの活動を振り返ると共に、他校の活動やＳＤＧｓについて多様な考え方を知ることを通して、これからの学習活動や自分の行動について考えるきっかけにする。

・各校の教育活動を第４期柱２施策２※1の視点で振り返り、持続可能な社会の創り手育成を通して「ともに未来を創る」ことの価値を再認識すると共に、今後の教育活動をよりよくする視点について意見をもったり表現したりする。

※1 横浜市教育ビジョンのアクションプランである第４期横浜市教育振興基本計画の柱２「ともに未来を創る力の育成」施策２「持続可能な社会の創り手育成の推進」に基づいてＥＳＤ推進事業を実施。

２　テーマ

「ヨコハマ_ラーニング・コンパス」～私たちが望む未来へ教育を進める～

３　日時

令和７年１月 25 日（土）９：３０～１２：００

４　会場

横浜市技能文化会館　２階多目的ホール

５　参加者

・ＥＳＤ推進校児童生徒及びピースメッセンジャー※2　約 100 名

・参加校の保護者、横浜市立学校教職員及びＥＳＤ関係者　約 100 名

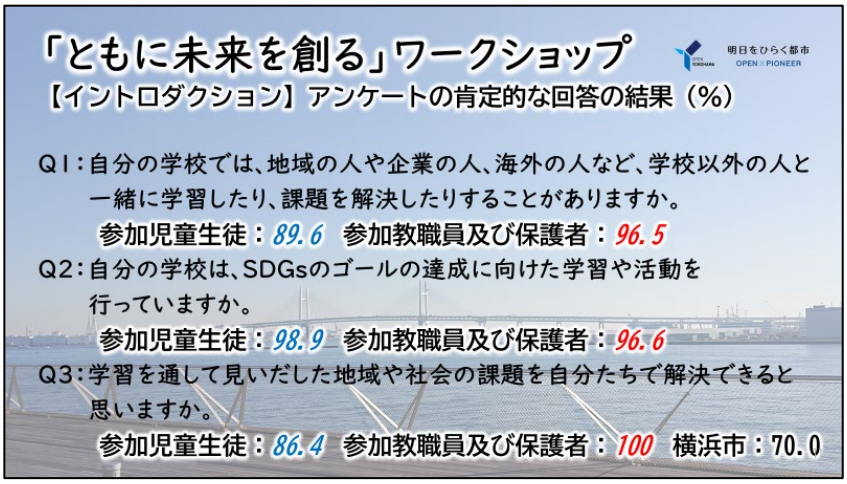
※2「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」の本選で、市長賞を受賞した小学生２名と中学生２名。横浜市の代表としてニューヨークの国際連合本部へ派遣され、ピースメッセージを届ける等の活動を行う。

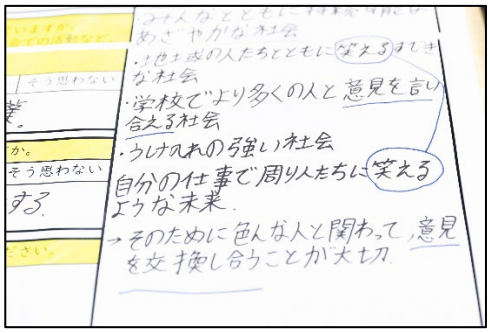
６　時程及び内容

時刻	内容
９：０５	受付開始 ポスターセッション準備
９：３０	【開会】
９：４０	【ポスターセッション】（前後半６分×３回）

様々な取組をやっていますが、どのようにしてそれぞれの取組は始まったんですか？

ほとんどのアイデアは自分たちで発案して始めたものです。先輩方の取組を引き継いでいるものもあります。

１０：１７	【全体感想交流】 他の学校の取組を聞けて良かったです。昆虫食などは知らなかったから、こういう取り組みもあるんだと思いました。
１０：３０	【休憩・ＷＳグループ移動】
１０：４０	【ともに未来を創るワークショップ】 ①参加児童生徒の事前アンケート結果の共有 
１０：４５	②「ともに未来を創る力」について、自分の学校の取組と比較しての振り返り
１１：０５	③ワールドカフェ方式での各グループの情報共有

１１：１５	④「私たちが望む未来へ教育を進める」ことの検討・まとめ  ・いせき或の人たちとともに笑えるまちなが社会 ・学校でより多くの人と意見を言い合える社会 ・うけのれの強い社会 自分の仕事で周りの人たちに笑えるような未来。 →そのために色んな人と関わって、意見を交換し合うことが大切
１１：３５	⑤グループ共有・全体感想交流 みんなの取組を聞いて、自分の学校でも生かしていけば、ＳＤＧｓの取組がさらに広がっていくと思いました。
１１：４５	⑥まとめ・クロージング 国立社会保障・人口問題研究所　佐々木　織恵 氏 横浜市教育委員会　教育委員　　森　祐美子 氏

7　アンケート結果

横浜市生活・学習意識調査に、「学習を通して見いだした地域や社会の課題を自分たちで解決できると思いますか」という設問があり、この設問は第４期横浜市教育振興基本計画柱２「ともに未来を創る力の育成」施策２「持続可能な社会の創り手育成の推進」の指標になっている。右のスライドの表は、左から令和４年度から６年度の横浜市立小中学生の回答結果であり、肯定的な回答が年々増加している。表の一番右は交流報告会に参加した児童生徒 96 名の肯定的な回答の結果で、横浜市全体と比べると 15 ポイント以上高く、ＥＳＤ推進校の取組は「学習を通して見いだした地域や社会の課題を自分たちで解決できると思う」という意識を高めることにつながっているといえる。

横浜市生活・学習意識調査の結果

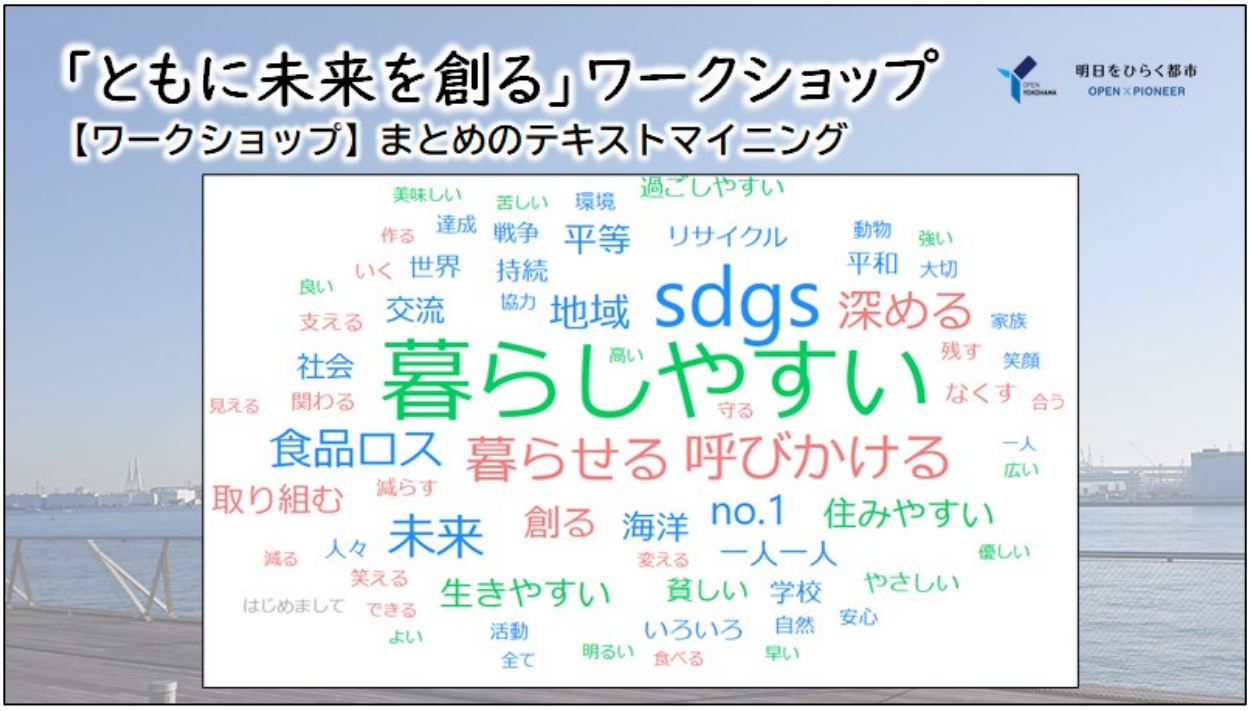
「学習を通して見いだした地域や社会の課題を自分たちで解決できると思いますか」

R4横浜市小中学生	R5横浜市小中学生	R6横浜市小中学生	ESD推進校小中学生高校生
65.7%	67.6%	70.0%	86.4%

交流報告会に参加した児童生徒 96 名の肯定的な回答の結果

交流報告会に参加した児童生徒及び会場に来た教職員や保護者、ＥＳＤ関係者に「ＳＤＧｓのゴールの達成に向けて、今自分が取り組んでいること」についてその場で回答してもらった。右のスライドはその回答結果をテキストマイニングしたものである。共通していることは、身近で生活に欠かせない食品に関わる言葉が多いことだった。これらの回答から、「Think globally, Act locally.」という考え方は、食品に関わることに取り組むことで、児童生徒にとっては自分事として捉えやすくなると考えられる。

「ともに未来を創る」ワークショップの最後に行った「私たちが望む未来へ教育を進める」ことを検討することを通して、各グループがワークシートにまとめたことをGoogle foam で集約した。次のスライドはその回答結果をテキストマイニングしたものである。「暮らしやすい」「生きやすい」「住みやすい」「過ごしやすい」といった未来を参加した児童生徒は望んでおり、これは、「ウェルビーイング」に包含される概念だと考えられる。本交流会のテーマにある「ヨコハマ_ラーニングコンパス」、つまり横浜が目指すべき学びの方向性については、こういった意見も踏まえたうえで、これから検討していきたい。



最後に、「持続可能な社会の創り手」において社会の創り手とは誰なのかを考えたとき、我々大人はもちろんのことながら、本交流報告会においては参加した小学生、中学生、高校生といった児童生徒も社会の創り手としての役割を果たしているといえる。つまり、ＥＳＤにおいて「こどもの意見表明」を授業や学校運営に取り入れていくことは当然のことで、それは本市の教育ビジョンに掲げている「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」を実現するためには欠かせない要素だといえる。